



霧の中、いざ山頂目指し出発進行～

8月に入り予定表を確認し、富士登山研修という項目に『祐宗』という苗字があり二度見た。正直行きたくない・持病があるから回避もドクターストップもかからず、登る覚悟を決めました。山道具が何もないので専務や小林部長上西さん、梅崎さんの経験者にアドバイスを求めましたが、「寒い」とか「毛布湿つたら山下りかんどくて、足笑ってこけそうになる」とか「登ったあとの風呂が気持ちいい」とか当てにならないのでいい情報ばかり。自分で調べて登山レンタルで予約しました。その数日後、鮮魚にFAXが来て、森清部長の経験談・必要なもの・集合時間などあり、そこでまた二度見・集合時間です。西条店に時！まじ？13時の間違い？西城の方？やはり西条に1時！覚悟を決めた、行くしかない、行くからは絶対に登らなといけな山がそこにはある(中略)

深夜1時全員揃いで目指す富士山、約10時間のロングドライブ。朝10時駿河湾の付近のサービシアreaで「最後の晩餐パーティー」と森清部長、笑しかなかった。あと少しの富士山に向け車を走らせ、大きな山が見え始めたが、雲がかかって頂上を見ることができず、さらに山に向かって走り、次第に小雨が降り始める中到着、バスで五合目に行き、いざ山頂目指し出発進行。

なんと六合目に到着。「ここからがスタート、先は長いよ」と三度の経験者の森清部長。3776mあるし、吾妻山より断然高いしと納得。1～2時間と歩き、いつの間にか最年長の光永支配人がペースメーカーに！初登頂なのに嘘みたいなスピードでグイグイ攻めて登る支配人。高山病になるのでは？と心配する自分。しかし七合目に到着した時にきついね～、行けるかな～と支配人。追い打ちをかけるように「ここからが長いよ」と森清部長。七合目に到着した時に、ほんのわずかに見ることが出来る景色。絶景じゃあ、なんかすげーと思ひ、こうなったらもっといい景色が見たいと思うようになるが、体は悲鳴を上げていく。

八合目に何とか到着、それまで、上を見れば山小屋が見えていたのが一変し雨と風がひどくなり、正に暴風雨。上を見ても霧で何も見えず、目指すべき建物が見えない不安、辺りも暗くうらやま限界か？下山か？ここまで来たらずが泊まるどころまで何が何でも行くと決め、頭も痛くなり始め、寒さも増してきた中、あと少しあと少しを一步步登り、どうにか宿に到着。その瞬間、達成感いっぱいになりました、頂上でもないのに。(笑)

宿に着き休めると思いきや、風・雨・寒さがかくどく々々寝れず。「毛布湿つて寝れないよ」情報をくれた専務。確かに湿つてる～でもどうでもよかった、湿つたらうらやまだろうが寝ると決め、21時には眠ることができました。

朝7時30分下山していく。あと少しで頂上だったのになんか虚しさを感じた。まあ命の危険もあるので下山となり、下始まること5分「足が笑い始める」という情報提供者、梅崎さんの言葉を思い出す。確かに止めることが出来ず、下山の辛さを味わう事になる。2時間くらいかけて下山し、五合目のエリアが見えた時には嬉しくて、涙が……出ませんでした。【メインポーター 祐宗】

今回『三度目の正直と御来光が見られるかと思いましたが、台風10号が来ている時点で「厳しい」と思いましたし、逆にどう無事に帰れるかの判断を見誤らないように注力しました。前にも命がかかった場面があり、判断をすることの難しさは今回も同様でした。常に天候とメンバーを気遣い、無事に帰ることを優先に判断しました。三度目の正直が、二度あることは三度ある…になってしまったことは悔やまれますが、これも経験と受け止め、みんなに世の中甘くない！と強く感じました。そして、周到な準備をしていても蓋を開けて見なければ分からない。しかし周到な準備があっても、最悪のケースを回避出来るし、道は開けてくると感じます。全ては、日々の考え方・姿勢につながるので今回の研修をまた自分の中で見つめ直し、日々の仕事に活かしていきます。【森清】

8月27日(土)、秋田県大曲地区で行われた『全国花火競技大会』(大曲の花火に、西田社長をはじめ3名のスタッフが鑑賞研修に行きました。この花火大会は、日本三大花火大会の一つといわれ、全国から選ばれた30近い業者が日本一を目指し、美と技術と創造性を競い合う花火大会です。

第90回を迎える記念すべき歴史ある大会に参加することができました。巨大な台風の接近で出発する前には天候が心配され秋田でも当日午前中まで降っていたという雨も空澄に着いた頃には快晴で雲ひとつない青空の下、開催されました。また今回初めて【屋花火】というのを見ました。この屋花火が行われるのは、全国でも大曲だけになり、昔から花火通の粋人が好む花火だったそうです。青空を背景に、煙の形・色にこだわりの、色彩豊かに模様を描き出すもので私にとっては花火の楽しみ方の新しい発見でした。【清水】

今回秋田県に行くのも初めての事で、そこで日本の花火大会に連れて行って頂けてと聞いた時からお祭り事が大好きな私はワクワク・ドキドキしながら気候や色々な状況を想像しながら準備をする事から楽しんでました。夜花火では音楽と共に打ち上げられる創造花火は迫力満点で、見た事もない未来宇宙的で美しく胸に響きわたるものや、和風でしっとり感動するものなど様々で本当に最高で感動し、素晴らしい一言です。お店でのディスプレイと曲選の参考に思い出して考えてみたいと思いました。そして一生の思い出になり、メンバーに選んでいただき、本当にありがとうございました。【栗原】

◆参加者…森清部長
光永支配人(副の料亭 地御前)
難波店長(すし辰線井本店)
祐宗チーフマネージャー(新鮮市場)
菊田主任(すし辰山本店)
吉貴主任(すし鮮西条店)

8月29～31日



富士登山
研修

鮮コーポレーション恒例の『富士登山研修』。今年度は、森清部長を隊長として、5名が日本一の山に挑戦しました！出発直前は台風10号の影響で天気が心配されましたが、予定通り出発。この登山は、観光ではなく研修です。天気に恵まれて登頂する事がなによりですが、その時の天候・状況に合わせて対応する事も大切です。参加されたスタッフは、この登山研修で何かを得られたに違いありません。いつもユニークな文章で鮮魚のチラシを担当される祐宗さんのレポートを中心に皆さんのレポートから少しずつ抜粋して、激動の富士登山の様子を紹介いたします。

- 1日目:移動(広島 → 山梨)、登山(8.5合目 御来光館まで)
＜移動内訳:西条→昼食(駿河湾沼津SA)→富士山駐車場(麓～5合目)＞
 - 2日目:下山(8.5～5合目 → 麓駐車場)、移動(風呂:気楽坊、昼食:かつ楽)
ホテル鐘山苑(館内のイベント、夕食)、山中湖観光
 - 3日目:朝食(ホテル鐘山苑)、昼食(沼津 魚がし鮎)、移動(静岡 → 広島)
- この度も、貴重な研修に参加させていただきありがとうございます。今回は、富士登山並びに、近隣の数店舗を見て回る研修でした。研修は上記の日程で行われました。台風といった天候面や、持病の咳喘息の兆候といった体調面での不安など準備段階の時点でありましたが、無事帰還する事が出来ました。メンバー間の協力(引っ張るフォローする)や安全性を重視した森清部長の決断等があったおかげでした。【菊田】



七合目～すずかに見える絶景



岩場を抜けて、霧の八合目

朝、ホテルの窓から見る富士山は、とても綺麗で、自分はこの山の頂上付近まで登ったんだと思うと鳥肌が立つような感じでした。ホテルを出発し、流れない寿司『魚がし鮎』に行きました。寿司を流すことなくオーダーのみ対応しているにも関わらず大勢のお客様が来店されて、ネタの大きさ、メニューの幅の広さ等「こまでするか」と思う豊富なメニューでした。【難波】

この登山で私は一つ重要な事を学びました。『一つの共通の目的がある中で、突出している方が一人でもいる場合に、その人のスピードがその集団のスピードになるということ』です。今回は、光永支配人という集団を引っ張る方がいて、富士山を登るという共通の目的を持った他のメンバーが、そのスピードに合わせてついて行き、結果的にはスピードを落とさず登山をすることが出来た。これは店の営業でも同じではないかと思いました。売上目標を絶対に達成しなければならぬという強い共通認識の中で、積極的にお客様に声かけやお薦めして売上貢献している人がいれば、周りの人達がそれについていこうと頑張るということが起きてそれが自身の店のスタンダードになるということです。【吉貴】



難波さんがホテルから見た富士山

富士登山を終えて一番感じたことは、リーダーの判断の難しさです。危険が伴うこと、安全を優先するのはもちろんですが、簡単に止めれば、会社が富士登山に行かせる目的を果たせないこととなります。広島にいた時点で判断すれば、台風の影響も報道で予想されていた程度でもなく、かなり遅れて登れたのという悔いも残り、キャンセル料など経費も無駄になってしまつてました。やれるだけのことはするという判断をした森清部長の判断は正しかったのだと思います。目的、目標を安易に諦めない、他人の意見を聴き取り、安易な判断をしてはいけないことを強く感じました。今回、富士登山をしながら考えたことは、なぜ鮮コーポレーションが社員を富士山に登らせるのか、目的は何なのかということ。登山は人生に例えられますが、人生と言わずと実業にも当てはまるということ。目標に向かって皆を鼓舞し、手を掛け合い励ましながら引っ張っていく。目標に向かないや、付いて来ない人の中、目標を達成することで見える景色や得られる達成感を、伝え続けなくてはならないのだと思います。先を読むことと予測することで、リスクを最小限に抑えスタッフを守ることリーダーとしてしてはいけないことだと感じました。【光永】

大曲地区のある大曲市はこの辺り。人口7万人の市に、この日は、人口の10倍以上の約74万人が集まつたそうです。

◆参加者
西田社長
清水室長(本部企画室)
北林主任(副の料亭 地御前)
栗原 照美さん(すし辰三次店)

お世話になったアジマックス様の心配りで、特に印象に残っているのは、ドリンクをオススメする時の言葉です。「どんどん飲んでください。飲んでいただかないと、この重い荷物を持って帰らなければいけません」と。押し付けがましくなく、ユーモアのある言葉でした。接客においても、こういった一つ一つの声掛けが大切だと感じました。また、大会終了後の規制退場についても四方八方から人が押し寄せ事を避ける為にエリア毎に出口が違い、その出口で係員が順番に流す形をとっており素晴らしいと思いました。こういった全てにおいて、90回の大会を重ねる事で改善された事だと思えました。【北林】

今回の花火の鑑賞は、栢野先生の懇話会の皆様、地元のアジマックス様大変お世話になり実現したものです。用意周到な準備と、きめ細やかなおもてなしを受け、数席席の特等席で最高の体験をさせていただきましたことが出来ました。さすが飲食のサービス業に従事されている皆様の心意気・随所にわたる気配りの姿勢を、同業者として勉強になり、まだまだ学ぶべきことも多いと実感しました。私たちの会社もこのようにおもてなしをする立場だったら、鮮コーポレーションの社員は、自分自身も、このような心配りができるだろうかと考えさせられました。【清水】

V-styles

社内報

鮮コーポレーション株式会社

2016年 9月号
No.189

今月の社内報 [コンテンツ]

- 富士登山研修
- 懇和会主催 秋田大曲 花火大会鑑賞研修
- リレメッセージ『わたしのVIVID』
- 庄原よいと祭り ポートレース
- 鮮魚 お客様からのお手紙紹介
- 昇格人事・中途採用社員紹介
- お客様の声
・社長へのハガキ&アンケートより
・図書コーナー感想より

発行 鮮コーポレーション株式会社 本部企画室

広島県庄原市西本町 2-18-8 新興ビル 4F
Tel (0824)72-0135
Fax (0824)72-6738
http://www.v-style.co.jp
e-mail nisida@mocha.ocn.ne.jp

鮮コーポレーション 店舗情報

西田鮮魚店
庄原市西本町 2-19-1 TEL.0824-72-5246

- 西条店
東広島市西条土と丸 1518-1 TEL.082-431-3580
- 呉店
呉市宝町 2-62 TEL.0823-32-3155
- 三原学園通り店
三原市宮浦 5-3-5 TEL.0848-61-3561
- 緑井本店
広島市安佐南区緑井 5-20-27 TEL.082-831-3155
- 山本店(可部店)
広島市安佐北区可部 1-6-40 TEL.082-819-1580
- 西風新都店
広島市安佐南区伴南 4-1-1 TEL.082-849-6866
- ゆめタウン廿日市店
廿日市市下平良 2-2-1 TEL.0829-34-3360
- 三次店
三次市南畑敷町 507-7 TEL.0824-62-6778

西条店
東広島市西条土と丸 1518-1 TEL.082-493-7298

呉店
呉市宝町 2-63 TEL.0823-32-7298

廿日市地御前
廿日市市地御前 5-19-14 TEL.0829-36-4832

9月すし部門
贈りものご用意しています
秋葉が美味くなる季節
美味くなる季節
お土産や贈り物にもなる
お土産や贈り物にもなる
お土産や贈り物にもなる
お土産や贈り物にもなる
お土産や贈り物にもなる